

私に影響を与えた一冊

yanagawaeiichi

「私に影響を与えた一冊」

「フランクリン自伝」という古い文庫本が僕の書棚に並んでいる。

その頃は本を買えば年月日を書いておくことが多かった。

昭和40年2月18日木 午後と書いてあるので、46年前のものである。

中学生から高校生になる時だったが、今から考えると、我ながら素晴らしい本を選んだものだと思う。

この本を部分的に何度も読んだが、最も面白いと思ったところは、フランクリンがボストンを去って、フィラデルフィアへ行き、そこで何とかやり繰りしながら生活してゆくところである。

この部分は、福沢諭吉が「福翁自伝」の中で長崎から大阪へ行くときの事を書いた部分によく似ている。

国と時代は違うものの、偉大な人物には同じような苦勞があるものである。

諭吉が適塾で、これ以上楽しいものはないと思えるような毎日を、オランダ語の勉強に当てるところと、フランクリンがフィラデルフィアで仕事と社会関係が向上していくところは、どちらもよく似たところである。

この本の最初の部分も中々いいものだ。

彼が自伝を書こうとした動機、両親、親戚、兄弟、先祖のことなどが興味深く表現されている。

18世紀初めの頃のアメリカが輝いている。

経済が発展してゆく夜明けがまぶしく見える。

現在のアメリカよ、独立前の初々しさを取り戻せ ！

フランクリンは読書が好きで、またある時から菜食主義者になる。

友人にも読書家が多く、かれが過ごした青春は読んでいてまるで自分のことのように想像して楽しい。

ただし僕の場合は彼とは大きく違うのであるが。

友人関係が、お金が原因でだめになったり、性格的に合う人とは生涯の付き合いをしたり、僕らのような日本人にも

為になるようなことが次から次へと起こるのである。

仕事から少しずつ議会と関係していくわけだが、自分を見失うことなく徐々に立場を向上させてゆく。

今の日本でこのようなことがあれば、多くの場合賄賂などの不道德なことが絡んでくるものであるが、フランクリンの場合は、人に後ろ指を指されるようなことはなかったにちがいない。

独立戦争の頃の彼は、アメリカのほかの州からも信頼を置かれていた。

しかし高慢になることはなかった。

彼が目的とした徳には、節制、沈黙、規律、決断、節儉、勤勉、誠実、正義、中庸、清潔、平静

、純潔、謙虚

などがある。

普通なら読んでいて、何と堅く、真面目すぎるヤツだろうと思うのだが、彼の場合はそんなことを思わせない。

逆に、読んでいて気持ちがよくなるのである。

不思議としか言いようがない。

僕には息子が二人いて、二人ともちゃんと自分で生活している。

フランクリンほどではないが、僕よりずっとしっかりしている。

いまのところ、社会の荒波に耐えきれず精神・身体を病んだということもない。

息子たちも「フランクリン自伝」を読んでもくれないかなあ。

まだ読んでいないだろうな。

昨年、男子の孫が生まれた。

まだ1歳にもなっていないが、比較的しっかりした様子である。

大きくなったらフランクリンに顔つきが似てくるのではないだろうか。

あるドイツ人に孫の写真を見せた時、将来りっぱな学者になるだろうと彼は言った。

三人の男たちよ、フランクリンが過ごした、楽しく、充実した、悔いのない青年期・壮年期をお前たちも過ごしてくれ ！